科目名: 国語1a		英文名: Japanese 1a	
担当者: 大内清司、牧野裕子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1.5	学年クラス別	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 漢文入門 第 2週 漢文入門 第 3週 熟語の構成 第 4週 「水の東西」山崎正和 第 5週 「水の東西」山崎正和 第 6週 「コンコルドの誤り」長谷川眞理子 第 7週 「コンコルドの誤り」長谷川眞理子 第 8週 中間試験 第 9週 試験返却・解答 第10週 「赤い頬をした動物」木原武一 第11週 「赤い頬をした動物」木原武一 第12週 「毎月新聞」佐藤雅彦 第13週 「毎月新聞」佐藤雅彦 第14週 期末試験 第15週 試験返却・解答	■授業概要・方法等 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、コミュニケーション力の向上を目指します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定4級程度の常用漢字の読み書きの能力を持つ。 2. (D-G1)(E-G1)文章の組立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにする。 3. (E-G1)(F-G1)論理的に考え、説得力を持って提示できる書き方を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 『改訂版高等学校標準国語総合』 第一学習社 ■参考書 教科書準拠の学習課題集、『常用漢字クリア』尚文出版 ■関連科目 特になし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:定期試験(50%)、小テスト(30%)、提出物(20%)として評価します。 定期試験は中間・期末の2回。 方式: 記述式 最終成績: 定期考査成績の平均点とし、80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」とします。 ■教員所在場所 大内清司:本館2階広報・企画室、 牧野裕子:2号館2階共通教育部教員室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 大内:oouchi@ktc.ac.jp 牧野:makino@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 大内清司:月12:15～13:00、牧野裕子:水12:15～13:00

科目名: 国語1b		英文名: Japanese 1b	
担当者: 大内清司、牧野裕子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1.5	学年クラス別	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 「ものまね上手・創造上手の日本技術」石井威望 第 2週 「ものまね上手・創造上手の日本技術」石井威望 第 3週 「イースター島になぜ森がないのか」鷲谷いづみ 第 4週 「イースター島になぜ森がないのか」鷲谷いづみ 第 5週 表現の実践 第 6週 表現の実践 第 7週 表現の実践 第 8週 中間試験 第 9週 試験返却・解答 第10週 「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子 第11週 「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子 第12週 「自立と依存」河合隼雄 第13週 「自立と依存」河合隼雄 第14週 期末試験 第15週 試験返却・解答	■授業概要・方法等 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、コミュニケーション力の向上を目指します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G1)(E-G1)日本漢字能力検定4級程度の常用漢字の読み書きの能力を持つ。 2. (D-G1)(E-G1)文章の組立て、語句の意味などを理解し、語彙を豊かにする。 3. (E-G1)(F-G1)論理的に考え、説得力を持って提示できる書き方を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 『改訂版高等学校標準国語総合』 第一学習社 ■参考書 教科書準拠の学習課題集、『常用漢字クリア』尚文出版 ■関連科目 特になし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:定期試験(50%)、小テスト(30%)、提出物(20%)として評価します。 定期試験は中間・期末の2回。 方式: 記述式 最終成績: 定期考査成績の平均点とし、80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」とします。 ■教員所在場所 大内清司:本館2階広報・企画室、 牧野裕子:2号館2階共通教育部教員室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 大内:oouchi@ktc.ac.jp 牧野:makino@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 大内清司:月12:15～13:00、牧野裕子:水12:15～13:00

科目名: 英語1a		英文名: English 1a	
担当者: 竹内春樹 オルダネス・ジェームズ 松山文彦 花巻昌子 遠藤千加子 福岡玲子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 3	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 Lesson 1 Only One Flower in the World 第 2週 Lesson 1 Only One Flower in the World 第 3週 Lesson 1 Only One Flower in the world 第 4週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? 第 5週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? 第 6週 Lesson 2 Can Robots Beat Human Players? 第 7週 Lesson 3 Puzzling Proverbs 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 Lesson 3 Puzzling Proverbs 第10週 Lesson 3 Puzzling Proverbs 第11週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. 第12週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. 第13週 Lesson 4 Godzilla in the U.S. 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 英語コミュニケーション能力の基礎作りを行います。教科書に沿った授業展開をし、英語を読む、書く、聞く、話す活動を総合的に行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2)英文法、教科書に出てきた単語と構文を習得し使えるようになる。 2.(E-G2)教科書の本文の意味が理解できる。 3.(E-G2)英語への関心を持つ。 ことができるようになります。 ただし習熟度Cクラス(1～3)、A1、A2、A3クラス(1～2)を到達目標とします。 ■教科書 Vivid English Course I(第一学習社)、Learners' English Grammar in 25 Stages(数研出版) ■参考文献 なし ■関連科目 英語2、英語3、英語4、英語特講、TOEICプラス、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)、方式:記述式と選択式 定期考査成績:共通テスト30%、クラステスト50%、小テスト10%、課題10%で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 ■教員所在場所 竹内、花巻、遠藤、福岡:2号館2階共通教育科、ジェームズ:本館4階国際交流室、松山:本館1階カウンセラー室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 竹内:takeuchi@ktc.ac.jp ジェームズ:james@ktc.ac.jp 松山:matsuyama@ktc.ac.jp 花巻:hanamaki@ktc.ac.jp 遠藤:endou@ktc.ac.jp 福岡:fukuoka@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名: 英語1b		英文名: English 1b	
担当者: 竹内春樹 オルダネス・ジェームズ 松山文彦 花巻昌子 遠藤千加子 福岡玲子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 3	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第1週Lesson 5 Is Another Ice Age Coming? 第2週 Lesson 5 Is Another Ice Age Coming? 第3週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation 第4週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation 第5週 Lesson 6 Queen of Subtitle Translation 第6週 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings 第7週 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings 第8週 中間試験 第9週 答案返却・解答 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings 第10週 Lesson 7 African Eve :Mother of Human Beings 第11週 Lesson 8 Everybody is Different 第12週 Lesson 8 Everybody is Different 第13週 Lesson 8 Everybody is Different 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 英語コミュニケーション能力の基礎作りを行います。教科書に沿った授業展開をし、英語を読む、書く、聞く、話す活動を総合的に行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1.(E-G2)英文法、教科書に出てきた単語と構文を習得し使えるようになる。 2.(E-G2)教科書の本文の意味が理解できる。 3.(E-G2)英語への関心を持つ。 ことができるようになります。 ただし習熟度Cクラス(1～3)、A1、A2、A3クラス(1～2)を到達目標とします。 ■教科書 Vivid English Course I(第一学習社)、Learners' English Grammar in 25 Stages(数研出版) ■参考文献 なし ■関連科目 英語2、英語3、英語4、英語特講、TOEICプラス、外国語文献購読 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)、方式:記述式と選択式 定期考査成績:共通テスト30%、クラステスト50%、小テスト10%、課題10%で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 ■教員所在場所 竹内、花巻、遠藤、福岡:2号館2階共通教育科、ジェームズ:本館4階国際交流室、松山:本館1階カウンセラー室 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 竹内:takeuchi@ktc.ac.jp ジェームズ:james@ktc.ac.jp 松山:matsuyama@ktc.ac.jp 花巻:hanamaki@ktc.ac.jp 遠藤:endou@ktc.ac.jp 福岡:fukuoka@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日と木曜日の12時15分～12時55分

科目名: 基礎数学 a		英文名: Fundamental Mathematics a	
担当者: 乗本学 山下秀夫 竹林聖央 中田祐輝			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全コース	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 4	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 数と式の計算 整式と計算(整式の加減乗) 第 2週 数と式の計算 整式と計算(因数分解、剰余の定理と因数定理) 第 3週 数と式の計算 整式と計算(分数式の計算)、いろいろな数と式(実数) 第 4週 数と式の計算 いろいろな数と式(平方根、複素数)・実力試験 第 5週 方程式と不等式 方程式(2次方程式、解と係数の関係) 第 6週 方程式と不等式 方程式(いろいろな方程式、恒等式) 第 7週 方程式と不等式 方程式(等式の証明) 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、方程式と不等式 不等式(不等式の性質) 第10週 方程式と不等式 不等式(1次不等式の解法、いろいろな不等式) 第11週 方程式と不等式 不等式(不等式の証明、集合、命題)・実力試験 第12週 関数とグラフ 2次関数(関数とグラフ、2次関数のグラフとその最大・最小) 第13週 関数とグラフ 2次関数(2次関数と2次方程式、2次関数と2次不等式) 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 高専1年生の「数学」では、中学校での授業から引き続き、数学的な考え方、その方法及び計算技術等を発展的に身に付けるようにしなければならない。この授業では、最も基本的かつ重要な整式の計算、数の性質、関数の概念等を学習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)それぞれの語句の意味を理解する。 2. (A-G1)それぞれの基本的計算をする。 3. (A-G1)それぞれの基礎的な計算をする。 4. (A-G1)それぞれの簡単な応用問題を解く。 5. (A-G1)それぞれの高度な応用問題を解く。 ことができるようになります。 ※習熟度Cクラスは1～5,A1クラスは1～4、A2クラス1～3、A3クラス1～3を達成目標とします。 ■教科書 新基礎数学(大日本図書)、新基礎数学 問題集、各担当者作成プリント ■参考文献 なし ■関連科目 物理、各専門科目 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 定期試験と課題点(レポート、ノート)を総合して評価します。 Cクラス:定期試験80% 課題点20%、A1クラス定期試験70% 課題点30%、 A2クラス:定期試験60% 課題点40%、A3クラス:定期試験50% 課題点50% 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 乗本学:本館2階入試部／norimoto@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 山下秀夫:2号館2階共通教育科教員室／yamashita@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 竹林聖央:2号館2階共通教育科教員室／takebayashi@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 中田祐輝:2号館2階共通教育科教員室／nakata@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。

科目名: 基礎数学 b		英文名: Fundamental Mathematics b	
担当者: 乗本学 山下秀夫 竹林聖央 中田祐輝			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全コース	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 4	習熟度別クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 答案返却・解答、関数とグラフ いろいろな関数(べき関数) 第 2週 関数とグラフ いろいろな関数(分数関数、無理関数) 第 3週 関数とグラフ いろいろな関数(逆関数、累乗根)・実力試験 第 4週 指数関数と対数関数 指数関数(指数の拡張、指数関数) 第 5週 指数関数と対数関数 対象関数(対数、対数関数、常用関数) 第 6週 三角関数 三角比とその応用(鋭角の三角比、鈍角の三角比) 第 7週 三角関数 三角比とその応用(三角形への応用) 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、三角関数 三角関数(一般角) 第10週 三角関数 三角関数(一般角の三角関数、弧度法) 第11週 三角関数 三角関数(三角関数の性質とグラフ)・実力試験 第12週 三角関数 加法定理とその応用(加法定理) 第13週 図形と式 点と直線(2点間の距離と分点、直線の方程式、2直線の関係) 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 高専1年生の「数学」では、中学校での授業から引き続き、数学的な考え方、その方法及び計算技術等を発展的に身に付けるようにしなければならない。この授業では、最も基本的かつ重要な整式の計算、数の性質、関数の概念等を学習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G1)それぞれの語句の意味を理解する。 2. (A-G1)それぞれの基本的計算をする。 3. (A-G1)それぞれの基礎的な計算をする。 4. (A-G1)それぞれの簡単な応用問題を解く。 5. (A-G1)それぞれの高度な応用問題を解く。 ことができるようになります。 ※習熟度Cクラスは1～5,A1クラスは1～4、A2クラス1～3、A3クラス1～3を達成目標とします。 ■教科書 新基礎数学(大日本図書)、新基礎数学 問題集、各担当者作成プリント ■参考文献 なし ■関連科目 物理、各専門科目 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 定期試験と課題点(レポート、ノート)を総合して評価します。 Cクラス:定期試験80% 課題点20%、A1クラス定期試験70% 課題点30% A2クラス:定期試験60% 課題点40%、A3クラス:定期試験50% 課題点50% 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所／メールアドレス／オフィスアワー 乗本学:本館2階入試部／norimoto@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 山下秀夫:2号館2階共通教育科教員室／yamashita@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 竹林聖央:2号館2階共通教育科教員室／takebayashi@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 中田祐輝:2号館2階共通教育科教員室／nakata@ktc.ac.jp／月曜日と木曜日 12:15～13:00 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。

科目名: 化学1a		英文名: Chemistry 1a	
担当者: 鈴木 隆 當麻祥子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 物質の種類と性質 第 2週 物質と元素 第 3週 原子・分子 第 4週 電子配置とイオン 第 5週 元素の周期表 第 6週 原子量・分子量と式量 第 7週 物質量 試験前演習 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 イオン間の結合 第10週 原子間の結合, 分子間の結合, 金属原子間の結合 第11週 粒子の運動と状態変化, 物質の構造と融点・沸点 第12週 ボイル・シャルルの法則 第13週 気体の状態方程式 試験前演習 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 中学からの理科の流れをくみ, 化学法則の理解に必要不可欠な原子, 分子, 電子などの基礎的な概念の習熟に努め, それに派生する諸現象について実例を交えながら教授し, 深い理解に努めます。化学1aは, 授業だけの学習時間では習熟が難しい科目であります。補助教材を用いての自宅学習が必須であり, 学生諸君が自ら意欲的に反復学習することが求められます。疑問があれば, 授業中およびオフィスアワーの時間を活用して積極的に質問を行い, その解消に努める必要があります。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)1+1, 1/2+1/3, 0.3+0.9の計算を理解する。 2. (A-G1)(D-G1)水素, 酸素の元素記号が書ける。また, 氷が溶けて水になる変化を融解と言うことを理解する。 3. (A-G1)(D-G1)鉛筆1ダースが12本であること。また, 原子・分子1モルが6.0×10^{23}個であることを理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 井口洋夫 他共著「Primary 大学テキスト これだけはおさえておきたい化学」 実教出版 ■参考文献 「チャート式高校化学」 数研出版 ■関連科目 数学, 物理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式:記述式 定期考査成績:提出物(20 %), 定期考査(80 %)で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均で評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 鈴木 隆:本館2階 教務部、當麻祥子:2号館2階 共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 鈴木:t_suzuki@ktc.ac.jp 當麻:touma@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 化学1b		英文名: Chemistry 1b	
担当者: 鈴木 隆, 當麻祥子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 溶解 第 2週 溶解度, 溶液の性質 第 3週 溶液の性質 第 4週 溶液の性質, コロイド溶液の性質 第 5週 コロイド溶液の性質 第 6週 温度と熱 第 7週 反応熱と熱化学方程式 試験前演習 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 状態変化と熱化学方程式, ヘスの法則 第10週 反応の速さ, 反応速度を変える条件 第11週 反応のしくみ, 可逆反応と化学平衡 第12週 化学平衡の異動, 化学平衡と化学工業 第13週 電解質水溶液の平衡 試験前演習 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 中学からの理科の流れをくみ, 化学法則の理解に必要不可欠な原子, 分子, 電子などの基礎的な概念の習熟に努め, それに派生する諸現象について実例を交えながら教授し, 深い理解に努めます。化学1bは, 授業だけの学習時間では習熟が難しい科目であります。補助教材を用いての自宅学習が必須であり, 学生諸君が自ら意欲的に反復学習することが求められます。疑問があれば, 授業中およびオフィスアワーの時間を活用して積極的に質問を行い, その解消に努める必要があります。 ■到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)有効数字の取扱い, 指数表現を理解する。 2. (A-G1)(D-G1)熱化学方程式という言葉を理解する。また, 熱化学方程式中の“＋”が発熱, “－”が吸熱を示すことを理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 井口洋夫 他共著「Primary 大学テキスト これだけはおさえておきたい化学」 実教出版 ■参考文献 「チャート式高校化学」 数研出版 ■関連科目 数学, 物理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式:記述式 定期考査成績:提出物(20 %), 定期考査(80 %)で評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均で評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 鈴木 隆:本館2階 教務部、當麻祥子:2号館2階 共通教育科 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 鈴木:t_suzuki@ktc.ac.jp 當麻:touma@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 日本史a		英文名: Japanese History a	
担当者: 松尾 大介			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 日本文化のはじまり 第 2週 ヤマト政権と古墳 第 3週 律令国家の成立 第 4週 律令国家の繁栄 第 5週 律令国家の変質 第 6週 摂関政治 第 7週 国風文化 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、荘園の発達と武士の台頭・解答、院政と平氏 第10週 鎌倉幕府の成立と発展 第11週 鎌倉文化 第12週 蒙古襲来と幕府の衰退 第13週 室町幕府の成立・下克上の社会 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 原始から始まり下克上の社会までを時代別に学習します。学生の興味・関心や疑問などに基づいて主題を設定すると共に，断片的な知識に目を奪われること無く，日本史の大筋の流れや時代の中での意味を見失うことのないように授業を行います。また，現代社会に存在する様々な差別と関連させつつ，法の下の平等の意味を理解できるように進めていきます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G1)原始、古代、中世の政治・経済・文化などを体系的に理解する。 2. (C-G1)現代日本形成の歴史的過程に対する十分な理解と認識を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 「改訂版 高校日本史」 山川出版 ■参考文献 特になし ■関連科目 世界史・政治・経済・地理・倫理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)，方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート(10%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とする。 80点以上「優」，60点以上～80点未満「良」，50点以上～60点未満「可」，50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 学生部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限と木曜日8限

科目名: 日本史b		英文名: Japanese History b	
担当者: 松尾 大介			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 室町文化・戦国の動乱 第 2週 織豊政権 第 3週 江戸幕府の成立 第 4週 幕政の安定 第 5週 経済の発展 第 6週 元禄文化 第 7週 幕府の改革 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、幕府の衰退・開国と幕府の滅 第10週 明治維新 第11週 立憲国家の成立 第12週 大陸政策の展開 第13週 近代の文化 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 室町時代から始まり近・現代史までを時代別に学習します。学生の興味・関心や疑問などに基づいて主題を設定すると共に，断片的な知識に目を奪われること無く，日本史の大筋の流れや時代の中での意味を見失うことのないように授業を行います。また，現代社会に存在する様々な差別と関連させつつ，法の下の平等の意味を理解できるように進めていきます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G1)近世、近代，現代の政治・経済・文化などを体系的に理解する。 2. (C-G1)現代日本形成の歴史的過程に対する十分な理解と認識を持つ。 ことができるようになります。 ■教科書 「改訂版 高校日本史」 山川出版 ■参考文献 特になし ■関連科目 世界史・政治・経済・地理・倫理 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)，方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(90%)、プリント・レポート・ノート(10%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」，60点以上～80点未満「良」，50点以上～60点未満「可」，50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 学生部 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス matuo@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限と木曜日8限

科目名： 地理a		英文名： Geography a	
担当者： 亀井 俊彦			
工学科： 総合システム	学年： 1	コース： 全	開講期： 前期
科目種別： 必修	単位数： 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・地球儀で世界を見る、地図の表現と実際、地図を読む 第 2週 国家間の協力と結びつき、進展する国家間の協力と結びつき、先進国と発展途上国との貿易 第 3週 食料生産と貿易による結びつき、エネルギー資源の生産と貿易による結びつき 第 4週 交通・通信の発達する世界、縮小する時間距離を調べる、交通機関の発達と生活 第 5週 産業分布と貿易の拡大、国境を越える資本、身近な品物に見るMadein?、海外進出と産業の空洞化 第 6週 進む人と文化の交流、経済の国際化と文化の画一化、反グローバル化の動き 第 7週 経済生活の地理、日本と世界のつながり、消費者生活の国際比較 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、人間行動と生活意識の変化、さまざまな労働形態、新しい労働形態 第10週 生活意識の変化と余暇活動、余暇時間の増大、多様な余暇活動 第11週 生活意識の変化と余暇活動、余暇時間の増大、多様な余暇活動 第12週 ボランテイア活動と交流、NGOによる援助と交流、環境の特性と異文化理解 第13週 人々の生活・文化の地域性、食べる、住む、話す 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 現代世界の様々な地域で起こっている自然的・社会的諸事象をグローバルな視点から学びます。系統地理的・地誌的に考察し現代世界の地理的認識を理解することで、地理的な見方、考え方を見につけることができます。また、地域的諸課題について、自然、社会環境を関連付け、主体的に認識、分析・解決していけるように多くの問題提示をおこないます。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 (C-G1)世界の各地で生起する諸事象について、地図などを利用してグローバルな視点、ローカルな視点から考える。 (C-G1)世界の自然環境・社会環境の重要な事項について、地理的に認識することができ、地理的な見方や考え方をする。 (C-G1)自国、世界の文化や価値観を理解する。自然との調和を考えた視点からものごとを考える。 ことができるようになります。 ■教科書『新地理A 暮らしと環境』(教育出版) ■参考書『新詳高等地図 最新版』(帝国書院) ■関連科目 日本史、世界史、政治・経済、倫理、経済学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回)，方式： 記述式 定期考査成績：定期考査(100 %)で評価する。 最終成績：2回の定期考査の平均で評価します。 80点以上「優」，60点以上～80点未満「良」，50点以上～60点未満「可」，50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kamei@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日 (12:15～12:55)

科目名： 地理b		英文名： Geography b	
担当者： 亀井 俊彦			
工学科： 総合システム	学年： 1	コース： 全	開講期： 後期
科目種別： 必修	単位数： 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 大韓民国の人々の生活と日本 第 2週 中国の人々の生活と日本 第 3週 フィリピンの人々の生活と日本 第 4週 深刻さを増す人口問題、かたよる人口の分布、地域で異なる人口動態 第 5週 世界の食糧問題 第 6週 都市問題にみる地球的課題 第 7週 環境問題 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答、資源・エネルギー問題 第10週 国際協力の必要性 第11週 漁業資源の開発と保護 第12週 自然保護・環境保全における国際協力 第13週 国際平和と日本、地球的課題の地理的考察 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 現代世界の様々な地域で起こっている自然的・社会的諸事象をグローバルな視点から学びます。系統地理的・地誌的に考察し現代世界の地理的認識を理解することで、地理的な見方、考え方を見につけることができます。また、地域的諸課題について、自然、社会環境を関連付け、主体的に認識、分析・解決していけるように多くの問題提示をおこないます。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 (C-G1)自国、世界の文化や価値観を理解する。自然との調和を考えた視点からものごとを考える。 (C-G1)現代世界の地理的認識を養うこと。どこで、どのように地理事象が見られるか考える。 ことができるようになります。 ■教科書『新地理A 暮らしと環境』(教育出版) ■参考書『新詳高等地図 最新版』(帝国書院) ■関連科目 日本史、世界史、政治・経済、倫理、経済学 ■成績評価方法および基準 種類： 定期試験(2回)，方式： 記述式 定期考査成績：定期考査(100 %)で評価します。 最終成績：2回の定期考査の平均で評価します。 80点以上「優」，60点以上～80点未満「良」，50点以上～60点未満「可」，50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kamei@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日 (12:15～12:55)

科目名: 保健体育1a		英文名: Health and physical education 1a	
担当者: 齊藤彰、福島伸一、藪根ゆい			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1	クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 集団行動Ⅰ 第 2週 集団行動Ⅱ 第 3週 集団行動Ⅲ 第 4週 集団行動Ⅳ 第 5週 体育理論・保健 1-1-1科学とは？ 1-1-2生理学からみたスポーツ 第 6週 球技・基礎体力の向上(ドッヂボール) 第 7週 球技・基礎体力の向上(ドッヂボール) 第 8週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅠ) 第 9週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅡ) 第10週 体育理論・保健 1-1-3バイオメカニクスからみたスポーツ 1-1-4運動学からみたスポーツ 第11週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅢ) 第12週 球技・基礎体力の向上(バスケットボールⅣ) 第13週 試験・新体力テスト 第14週 期末試験(筆記) 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2. (D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 3. (D-G2)ドッヂボール, バスケットボールの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚える。 ことができるようになります。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性(40%)、定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 : 齊藤彰 : 本館1階学生部 福島伸一 藪根ゆい:本館1階寮務部 ■授業評価アンケート実施 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス saitoh@ktc.ac.jp fukushima@ktc.ac.jp yabune@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日8限

科目名: 保健体育1b		英文名: Health and physical education 1b	
担当者: 齊藤彰、福島伸一、藪根ゆい			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1	クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第1週 体育理論・保健 1-2-1体力とは。 1-2-2スポーツトレーニングの課題 第2週 球技・レクリエーションスポーツ(ソフトバレーボールⅠ) 第3週 球技・レクリエーションスポーツ(ソフトバレーボールⅡ) 第4週 球技・レクリエーションスポーツ(ソフトバレーボールⅢ) 第5週 球技・レクリエーションスポーツ(ソフトバレーボールⅣ) 第6週 体育理論・保健 1-2-3トレーニング処理の原則 1-2-4トレーニングの方法 第7週 陸上競技・マラソン 第8週 陸上競技・マラソン 第9週 陸上競技・マラソン 第10週 陸上競技・マラソン 第11週 体育理論・保健 1-3-1運動の分類 1-3-2スポーツ運動の構造 第12週 陸上競技・マラソン計測 第13週 試験 新体力テスト 第14週 期末試験 第15週 答案返却・解答	■授業概要・方法等 少年から青年へと成長する過渡期にある高専の学生にとって心身の健全な育成の為に行なわれる保健体育の学習は極めて重要です。将来社会人として生きていく際にも、健康を自分自身で管理す為の基本知識を養う事を目標とします。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (C-G2)(D-G2)自分で健康を管理する為の基本的知識を身に付ける。 2. (D-G2)集団行動を通じて協調性を養う。 3. (D-G2)ソフトバレー, マラソンの基本的ルールを学び、参加する楽しさを覚える。 ことができるようになります。 ■参考文献 「保健体育概論(増補版)」近畿地区高等専門学校体育研究会編 「最新スポーツルール」(大修館) ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価基準 種類: 定期試験(1回) 方式: 記述式 体育では、各種目の運動技能及び授業への取り組み方を評価する。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性(40%)、定期考査(20%)によって 総合的に評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 齊藤彰 : 本館1階学生部 福島伸一 藪根ゆい:本館1階寮務部 ■授業評価アンケート実施 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス saitoh@ktc.ac.jp fukushima@ktc.ac.jp yabune@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 金曜日8限

科目名: 保健体育(柔道)1a		英文名: Health and physical education 1a	
担当者: 三好紀孝、須山雅俊			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 0.5	クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 柔道の特性についての説明 第 2週 姿勢と組み方 第 3週 前後・左右のくずし 第 4週 後ろ前隅くずし 第 5週 八方くずし、体さばき 第 6週 前・後回りさばき 第 7週 固め技・腕立て足交差 第 8週 固め技・前後ブリッジ、脇固 第 9週 固め技・エビ、逆エビ 第10週 固め技・足回し、交差、蹴り 第11週 受身・前、後受身 第12週 受身・横、前回り受身 第13週 受身・投げからの受身 第14週 期末試験(実技) 第15週 解答	■授業概要・方法等 基本的動作や対人的技能のここの理解を正しく理解し行えるようにします。礼儀を正しくし、練習の上の約束を守り、協力して練習ができるようにします。禁じられている技は用いないなど、安全に留意して練習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1.(C-G2,D-G2)柔道着の着方と前周受身を覚える。 2.(C-G2,D-G2)柔一体落、支釣込足等の投技と投げられてからの受身をとる。 ことができるようになります。 ■教科書 大修館 最新スポーツルール ■参考文献 近畿地区高専体育研究会編 増補版 保健体育概論 ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(年1回), 方式: 体育実技試験 記述式試験 体育では、各種目の運動技術及び授業への取り組み方を評価します。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)、定期テスト(20%)によって総合的に評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 三好紀孝:本館1階学生部・体育館 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス miyoshi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日及び水・木曜日6限以降

科目名: 保健体育(柔道)1b		英文名: Health and physical education 1b	
担当者: 三好紀孝、須山雅俊			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 0.5	クラス編成	

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 体落の打ち込み 第 2週 体落の投げ方 第 3週 支釣込足の打ち込み 第 4週 支釣込足の投げ方 第 5週 体落・支釣込足による攻防の仕方 第 6週 限られた技による自由稽古 第 7週 体落・支釣込足による連絡変化 第 8週 その他の技(手技) 第 9週 その他の技(腰技) 第10週 その他の技(足技) 第11週 立ち技の自由稽古 第12週 袈裟固・送襟絞・腕挫十字固の仕方 第13週 立技・寝技の総合練習 第14週 期末試験(実技) 第15週 解答	■授業概要・方法等 基本的動作や対人的技能のここの理解を正しく理解し行えるようにします。礼儀を正しくし、練習の上の約束を守り、協力して練習ができるようにします。禁じられている技は用いないなど、安全に留意して練習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1.(C-G2,D-G2)柔道着の着方と前周受身を覚える。 2.(C-G2,D-G2)柔一体落、支釣込足等の投技と投げられてからの受身をとる。 ことができるようになります。 ■教科書 大修館 最新スポーツルール ■参考文献 近畿地区高専体育研究会編 増補版 保健体育概論 ■関連科目 保健・健康科学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(年1回), 方式: 体育実技試験 記述式試験 体育では、各種目の運動技術及び授業への取り組み方を評価します。各競技及び新体力テストによるスキル・テスト(40%)と授業への積極性及び課題評価(40%)、定期テスト(20%)によって総合的に評価します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 三好紀孝:本館1階学生部・体育館 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス miyoshi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日及び水・木曜日6限以降

科目名: 中国語 初級 a		英文名: Chinese(beginner‘s class)a	
担当者: 酒井宗和			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス(中国語の特徴と概要及び授業の進め方) 第 2週 挨拶語を覚える中で発音(声調＝高低アクセント)を覚える 第 3週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号(母音1)を覚える 第 4週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号(母音2)を覚える 第 5週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号(母音3)を覚える 第 6週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号(母音4)を覚える 第 7週 挨拶語を覚える中で発音と発音符号(子音1)を覚える 第 8週 中間試験(含ヒアリングテスト) 第 9週 スピーキングテストと答案返却・解説 第10週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号(子音2)を覚える 第11週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号(子音3)を修得する 第12週 挨拶語を覚える中で発音・発音符号・アクセントを修得する 第13週 各自の名前を中国語で言い、その発音符号を書けるようにする 第14週 期末試験(ヒアリングテストを含む) 第15週 スピーキングテストと答案返却・解説	■授業概要 各種の挨拶言葉を教師の口真似で十回ほど繰り返し、一方、出てきた各音節につき、音声学的解説を加え、意識的記憶と意図的練習ができるように認識付けします。 ■到達目標 1.(C-G1) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えるきっかけにすることができるようになります。 2.(D－G1)言語学、音韻学、考古学的に中国語を理解し、中国語の基礎学力を身に付けます。 3. 具体的には、前期に於いて、各種の挨拶言葉を耳で覚え、同時に「発音符号」を知り、聞き、話し、読み、書くことを、基本的に修得させます。 ■授業の進め方 各種の挨拶言葉をプリントにし、教師の口真似で十回ほど繰り返し、音(言葉)として記憶すると同時に、「発音符号」を読みこなし、字引きを利用できる力を付け、 意識的記憶と自習ができるようにします。 ■教科書 プリントを作成、配布します。また夏季休暇には課題プリントを課します。 ■参考書 中国語音節表を配布します。 ■関連科目 特にありません。 ■試験方法 種類: 定期試験(2回) 方式: 記述式50点、スピーキング20点、ヒアリング20点。 夏季課題(プリント)20点。 ■成績評価基準 定期考査成績: ①記述テスト＝挨拶言葉の翻訳と発音符号の表記力 ②母音、子音、アクセントの聞き分け力 ③挨拶言葉のスピーク、母音・子音・アクセントの発音力 定期試験及び夏季課題の合計を2で割ったものを定期考査点とします。欠席した場合、3回を限度として、一回当たり5点を定期考査点より減点します。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■授業アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所 本館4階 国際交流部 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜第4限

科目名: 中国語 初級 b		英文名: Chinese (beginner‘s ciass)b	
担当者: 酒井宗和			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週～7週 各種の挨拶語を覚え、発音とその符号を修得し、関連の中国式「漢字」を覚える。 第 8週 中間試験(ヒアリングテストを含む) 第 9週 スピーキングテスト、答案返却・解答 第10週～13週 数字の言い方と各種の、数字による表現を学ぶ 第14週 期末試験(ヒアリングテストを含む) 第15週 スピーキングテスト、答案返却・解説	■授業概要 色々な中国語数字の数え方、数字の各種の使われ方、及びその表現、 数字を用いた中国の成語、携帯用語などを学びます。 ■到達目標 1.(C-G1) 中国語の背景となる中国の歴史や文化・自然条件や風俗・習慣、発想・価 値観を知り、自国との対比において理解し、自然との調和を考慮した視点で物事を考えるきっかけにすることがができるようになります。 2.(D－G1)言語学、音韻学、考古学的に中国語を理解し、中国語の「漢字」を覚え始めます。 3. 具体的には、後期に於いて、日常生活の基礎用語の一つである数字とその各種の 使い方を覚え、同時に「発音符号」に熟達させ、一方、中国式「漢字」を覚え始めさせ ます。 ■授業の進め方 プリントを配布し、指名して読ませ、全員で反復音読し、背景となる 中国の現地事情を解説します。 ■教科書 プリントを作成します。 ■参考書 特にありません。 ■関連科目 特にありません。 ■試験方法 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式とヒアリング、スピーキングテスト ■成績評価基準 定期考査成績:2回の定期試験①記述テスト(60点)＝挨拶言葉の翻訳と「発音符号」 の表記力 ②ヒアリング(20点)、スピーキング(20点)＝母音、子音、アクセントの発音力を三段階に分け、できなければ0点、できれば10点、良くできれば20点と評価します。欠席した場合、3回を限度として、一回につき5点を定期試験点より減点します。80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」。 最終成績:2回の定期考査の平均点とします。 ■授業アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所 本館4階 国際交流部 ■メールアドレス sakai@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 土曜第4限

科目名: 生物1a		英文名: Biology 1a	
担当者: 鈴木 隆			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 細胞の研究 第 2週 細胞の構造と働き 第 3週 細胞膜と物質の出入り 第 4週 細胞分裂 第 5週 細胞と生物体 第 6週 代謝とエネルギー代謝 第 7週 酵素とその特性 第 8週 酵素の最適活性条件 第 9週 呼吸, 同化, 異化 第10週 嫌気呼吸 第11週 好気呼吸 第12週 光合成のしくみ 第13週 光合成の条件 第14週 期末試験 第15週 答案返却, 解答	■授業概要・方法等 生物の基礎知識(細胞, 代謝, 遺伝)などを教授するなかで, 生命に対する探究心, 観察力, 倫理観などを養い, 他の教科の視野にいれて関連付け, 科学的英知の礎となるよう教授します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)細胞の仕組みを理解する。 2. (A-G1)(D-G1)エネルギー代謝, 呼吸の仕組みを理解する。 3. (A-G1)(D-G1)光合成と窒素同化の関係を理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 「つくるMy note 生物IB」学習研究社 ■参考文献 「生物図録」数研出版 ■関連科目 化学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(100 %)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 鈴木 隆:本館2階 教務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス t_suzuki@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 生物1b		英文名: Biology 1b	
担当者: 鈴木 隆			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 選択	単位数: 0.5		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 化学合成と窒素同化 第 2週 無性生殖 第 3週 有性生殖 第 4週 減数分裂 第 5週 生殖細胞の形成 第 6週 生殖細胞の受精 第 7週 生殖についてのまとめ 第 8週 生殖についての図解演習 第 9週 自然界の生物の関係 第10週 自然界の仕組み 第11週 生活環 第12週 発生の過程 第13週 発生のしくみ 第14週 期末試験 第15週 答案返却, 解答	■授業概要・方法等 生物の基礎知識(細胞, 代謝, 遺伝)などを教授するなかで, 生命に対する探究心, 観察力, 倫理観などを養い, 他の教科の視野にいれて関連付け, 科学的英知の礎となるよう教授します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は, この授業を履修することによって, 1. (A-G1)(D-G1)無性生殖, 有性生殖の違いについて理解する。 2. (A-G1)(D-G1)発生について理解する。 ことができるようになります。 ■教科書 「つくるMy note 生物IB」学習研究社 ■参考文献 「生物図録」数研出版 ■関連科目 化学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期考査(100 %)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■教員所在場所 鈴木 隆:本部棟2階 教務部 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス t_suzuki@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日8限

科目名: 芸術 (音楽)		英文名: music	
担当者: 佐山絵美			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 前期・後期
科目種別: 選択	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス サウンドスケープ 第 2週 リズム表現 ボディパーカッション 第 3週 バロック・古典派の音楽 合唱 第 4週 バロック・古典派の音楽 合唱 第 5週 ハンドベル 第 6週 ハンドベル 第 7週 ロマン派の音楽 合唱 第 8週 ロマン派の音楽 合唱 第 9週 創作表現 第10週 創作表現 第11週 近代・現代の音楽 合唱 第12週 近代・現代の音楽 合唱 第13週 ミュージカル 合唱 第14週 ライフヒストリー サウンドロゴ 第15週 音楽発表	■授業概要・方法等 音楽表現及び鑑賞を通して、多様な音楽に対する理解を深めます。個々の感性を尊重し、発想力を育むとともに創造的な音楽活動を展開します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (D-G2)音や音楽への関心を高め、豊かな情操を養う。 2. (D-G2)感性や発想力を磨き、創造力を身に付ける。 ことができるようになります。 ■教科書 独自の資料を使用 ■参考文献 独自の資料を使用 ■関連科目 なし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:レポート、創作作品、歌唱、授業態度を総合して評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」 50点以上～60点未満「可」、50点未満 「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 前期科目は10月にアンケート用紙を配布します。 後期科目は2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス :klmmeses@gmail.com ■オフィスアワー :火曜日12:45～13:45 ■教員所在場所 :2号館2階 共通教育科教員室

科目名: 芸術 (書道)		英文名: calligraphy	
担当者: 奥野年光			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース:全	開講期: 前期・後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 生涯学習と国際化への対応 第 2週 筆使いの基本と文房四宝 第 3週 書の心得、美への感性 第 4週 古典(六朝の書法) 第 5週 古典(唐の書法) 第 6週 古典(三筆と三跡) 第 7週 平仮名と変体がな1 第 8週 平仮名と変体がな2 第 9週 創作 調和体(仮名まじり文) 第10週 創作 調和体(仮名まじり文) 第11週 創作 (色紙に書いてみる) 第12週 創作 高専祭出品作品 第12週 創作 高専祭出品作品 第14週 創作 高専祭出品作品 第15週 創作 高専祭出品作品 ■指針 学年を二つに分け、前期2クラスそして後期2クラスを対象に同様の授業を行う。	■授業概要・方法 書写教育を単なる希薄な技法伝授の場にすることのないよう、時代を見通す明瞭な視点と思考を持ち、授業を展開します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者はこの授業を履修することによって、受講者は単なる「お習字」的な書き方だけを学ぶのではなく、「文字を手書きすること」の価値と意義を学び、豊かな情操と高い気品をもって生き生きと実生活で活躍できるようになります。そして、 1. (C-G1)書を通して、自国および世界の文化と価値観を理解する 2. (C-G1)書を通して、国語の基礎学力を身につける 3. (D-G2)書を通して、創造力を身につける ことができるようになります。 ■教科書 特になし ■参考文献 和漢書道史 書の古典美 古典仮名字鑑 文房四宝 墨場必携 詠物詩選 五体字類 ■関連科目 特になし ■成績評価方法および基準 定期考査成績:毎時間提出する清書・最後の創作作品(80%)、そして通常の授業態度(書く態度と意欲)(20%)を基に評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 前期は10月にアンケート用紙を配布します。 後期は2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス ousyuu1206@yahoo.co.jp ■オフィスアワー 水曜日15:30～16:30 ■教員所在場所 2号館2階 共通教育科教員室

科目名: 情報処理Ⅰa		英文名: Information Processing Ⅰa	
担当者: 山川昌文 中谷英士 栗木直美 武田正幸 桑川 栄一			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 前期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 ガイダンス・情報処理教育センター演習室の環境および使用するｺﾝﾋﾟｭｰﾀ の使用方法の説明 第 2週 パーソナルコンピュータの基本操作 第 3週 ソフトウェアの利用(文書処理ソフトウェア)(1) 第 4週 ソフトウェアの利用(文書処理ソフトウェア)(2) 第 3週 ソフトウェアの利用(文書処理ソフトウェア)(3) 第 4週 ソフトウェアの利用(文書処理ソフトウェア)(4) 第 5週 ソフトウェアの利用(文書処理ソフトウェア)(5) 第 6週 ソフトウェアの利用(演習)(1) 第 7週 ソフトウェアの利用(演習)(2) 第 8週 中間試験 第 9週 試験返し・解答 第10週 コンピューターの歴史 第11週 情報化に進展と産業社会 第12週 情報のモラルと管理 第13週 演習問題(1) 第14週 演習問題(2) 第15週 期末試験	■授業概要・方法等 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解するとともに、情報技術の基礎的な知識と技術を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 1. (A-G2)ワードなどのワープロソフトがおおよそ使いこなせる。 2. (A-G2)コンピュータの発展と歴史的な経緯を理解しながら、利用形態を学ぶ。 3. (A-G2)マルチメディアの活用に必要な基礎知識を習得する。 ことができるようになります。 ■教科書 新編 新しい情報技術基礎 オーム社 ■参考文献 ■関連科目 数学 ■試験方法 種類: 定期試験(2回)、記述式 ■成績評価基準 定期考査成績:定期試験(70%)、演習・レポート(30%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 ■教員所在場所 山川昌文:本館2階入試部、中谷英士、栗木直美、武田正幸、桑川栄一:3号館2階情報処理教育センター管理室 ■授業アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 山川昌文 : yamak@ktc.ac.jp、中谷英士 : nakatani@ktc.ac.jp、栗木直美:kuriki@ktc.ac.jp、武田正幸:mtakeda@ktc.ac.jp、桑川栄一:kuwakawa@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 山川昌文:月曜日 12:15－13:00、中谷英士:月曜日 12:15-13:00、9限、栗木直美:木曜日12:15－13:00、桑川栄一:水曜日12:15－13:00

科目名: 情報処理Ⅰb		英文名: Information Processing Ⅰb	
担当者: 山川昌文 中谷英士 栗木直美 武田正幸 桑川 栄一			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 後期
科目種別: 必修	単位数: 1		

授 業 計 画	授 業 概 要
第 1週 前期期末試験の解答 第 2週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア)(1) 第 3週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア)(2) 第 4週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア)(3) 第 5週 ソフトウェアの利用(表計算ソフトウェア)(4) 第 6週 オペレーティングシステムの基礎 第 7週 アプリケーションソフトウェアの活用 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 第10週 マルチメディアの概要 第11週 マルチメディア技術の基礎 第12週 マルチメディアの応用 第13週 演習 第14週 期末試験 第15週 試験返し・解答	■授業概要・方法等 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解するとともに、情報技術の基礎的な知識と技術を習得します。 ■学習・教育目標および到達目標 1. (A-G2)エクセルなどの表計算ソフトがおおよそ使いこなせる。 2. (B-G1)コンピュータの基礎知識を修得するとともに、各種データの整理方法を修得する。 ことができるようになります。 ■教科書 新編 新しい情報技術基礎 オーム社 ■関連科目 数学 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回)、記述式 定期考査成績:定期試験(70%)、演習・レポート(30%)として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」、60点以上～80点未満「良」、50点以上～60点未満「可」、50点未満「不可」 ■教員所在場所 山川昌文:本館2階入試部、中谷英士、栗木直美、武田正幸、桑川栄一:3号館2階情報処理教育センター管理室 ■授業アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス 山川昌文 : yamak@ktc.ac.jp、中谷英士 : nakatani@ktc.ac.jp、栗木直美:kuriki@ktc.ac.jp、武田正幸:mtakeda@ktc.ac.jp、桑川栄一:kuwakawa@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 山川昌文:月曜日 12:15－13:00、中谷英士:月曜日 12:15-13:00、9限、栗木直美:木曜日12:15－13:00、桑川栄一:水曜日12:15－13:00

科目名: 工学実験・実習1		英文名: Engineering Experiments and Practice 1	
担当者: 奥田昇也 右松亨 川満宏 吉川隆 九門五郎 中谷英士 武田正幸 倉本逸郎 青木繁 中西祐啓 桑川栄一 本田康子			
工学科: 総合システム	学年: 1	コース: 全	開講期: 通年
科目種別: 必修	単位数: 4		

授 業 計 画	授 業 概 要
第1週 ガイダンス 第2週から各班に別れてローテーションしながら実験を行います。 第2週～第9週・・・・・第1回～第8回実験 第10週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導 第11週～第18週・・・・第9回～第16回実験 第19週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導 第20週～第23週・・・第17回～第20回実験 第24週・・・・・・・・・・・再実験・レポート指導 ---実験テーマ--- ◇機械系・・・・・・・・ 2週・・・奥田、右松、川満 M1～2『旋盤の使用方法および旋盤を用いた簡単な製品の製作』 ◇都市環境(土木系)・・・ 2週・・・倉本、五十石 C1～2『①建設土木、②測量実習』 ◇都市環境(土木系)・・・ 2週・・・青木 A1～2『①建築デザイン、②造形デザイン』 ◇電気電子系・・・・・・ 2週・・吉川、九門 E1～2『電子工作の基礎①～②』 ◇情報系・・・・・・・・ 4週・・・武田、中谷 I1～4『JAVA、html、Javascriptの演習』 ◇製図・・・・・・・・・ 4週・・・中西 H1～4『製図の基礎。手書き製図演習』 ◇CAD・・・・・・・・・ 4週・・・桑川、本田 D1～4『AutoCADを用いたCAD製図①線分・円と楕円の作成、②スナップとグリッド、③文字記入とハッチング』	■授業概要・方法等 技術者をめざす高専の学生を対象とした工学系に関する基本的な実習・実験を行います。基本的な計測器の使い方、実験を進める手順を学び、結果に対する考察検討を行います。製図については、製図の基礎知識、第三角法について学び、手書き製図・CAD製図の演習を行います。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (A-G2)機械系、電気電子系、情報系、都市創造系などの工学の基本的な事項を, 実際に体験しながら学ぶと同時に, 実験科目への取組み方を習得する。 2. (A-G2)実験報告レポートの基本的な書き方・まとめ方を習得し、結果に対する考察を検討する習慣をつける。 3. (A-G2)各コースに共通的なCADや製図についても実際に体験することによって基礎知識を習得する。 ことができるようになります。 ■教科書 各担当教員自作の資料 ■関連科目 物理, 数学, 工学一般 ■成績評価方法および基準 各自が実験のレポートまたは作品を提出しなければなりません。実習の最後に小テストを課すテーマもあります。 成績は実験中の態度(20%)、提出物・作品による評価(80%)の配分とします。80点以上「優」, 60点以上～80点未満「良」, 50点以上～60点未満「可」, 50点未満「不可」 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■教員所在場所/メールアドレス/オフィスアワー 奥田:本館2階コミュニケーション室/okuda@ktc.ac.jp/月曜日9限 右松、川満:4号館1階技術員控室/月曜日9限 倉本:学生部/kuramoto@ktc.ac.jp/月曜日9限 五十石:寮務部/isoishi@ktc.ac.jp/月曜日9限 青木:図書館/aokis@ktc.ac.jp/月曜日9限 吉川:本館2階教務部/yoshikawa@ktc.ac.jp/水曜日12:15～13:00 九門:3号館1階電気電子・情報系教員室/kumon@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00 武田:3号館2階情報処理教育センター管理室/mtakeda@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00 中谷:3号館2階情報処理教育センター管理室/nakatani@ktc.ac.jp/月曜日12:15～13:00 中西:4号館1階水理実験室/m-nakanishi@ktc.ac.jp/木曜日8限目 桑川:3号館2階情報処理教育センター管理室/kuwakawa@ktc.ac.jp/水曜日12:15～ 本田:3号館2階情報処理教育センター管理室/honda@tse.kutc.ac.jp/火曜日9限と木